

派遣報告書

平成28年2月29日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 段塚 廣文



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

1 派遣期間 平成28年2月24日(水)から平成28年2月26日(金)まで

2 派遣先 (1) 高知県高知市 2/24(水) 14:00~16:00
(2) 香川県東かがわ市 2/25(木) 10:00~12:00
(3) 徳島県吉野川市 2/25(木) 14:00~15:30
(4) 徳島県阿南市 2/26(金) 10:00~12:00

3 視察議員名 段塚 廣文、福谷 直美、丸田 克孝、藤井 隆弘

4 面会者 (1) 高知県高知市
高知県立美術館館長 藤田直義氏、同副館長 西内 豊 氏
(2) 香川県東かがわ市
東かがわ市教育長 竹田具治氏、学校教育課長 久保輝起氏
(3) 徳島県吉野川市
吉野川市議会議長 栗原五男氏、議会事務局長 犬伏 司氏
(4) 徳島県阿南市
阿南市長 岩浅 嘉仁氏、阿南市議会議長 久米 良久氏
同議事課長 青木芳幸氏、同野球のまち推進課長 山崎秀行氏
同推進鑑 田上重之氏、同課長補佐 山下祥介氏

5 派遣目的 (1) 高知市「美術館建設、運営状況について」
(2) 東かがわ市「土曜授業の取り組みについて」
(3) 吉野川市「学校再編について」
(4) 阿南市「野球のまち阿南推進事業について」

6 視察の経過及び感想
別紙 会派くらよしアイズ・倉吉自民共同「行政視察報告書」参照

7 添付書類
(1) 面会者名刺一覧

(2) 視察先提供資料

要した経費： 4人合計 / 30,780 円

会派くらしよアイズ・倉吉自民共同「行政視察報告書」

(視察・調査の経過及び感想)

日 時 平成28/2/24(水)～26(金)
議 員 段塚 廣文、福谷 直美、丸田 克孝、
藤井 隆弘

1. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 高知県高知市 2/24(水) 14:00～16:00 「美術館建設、運営状況」について

市郊外にある景観のよい場所に立地する高知県立美術館に到着。館長室で館長の藤田直義氏、同副館長の西内豊氏の出迎えを受ける。挨拶の後、説明を受ける。

高知県立美術館は、芸術文化の総合的発信基地、県民のための美術館、生涯学習の場としての美術館、幅広い文化活動の交流の場としての美術館(美術館ホール)をコンセプトに平成5年3月竣工された。施設は、鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階で、敷地面積19,574㎡、建設面積6,388㎡、延床面積11,737㎡。常設展示室2室、企画展示室2室、県民ギャラリー等の他、収蔵室(3室)、ホール(399席)や能楽堂(465席)、レストランなどを有する。建設にあたっては、用地費9億、造成工事費4.1億、建築工事費6.4億等総事業費8.4億を要した。

当初は、高知県文化財団に管理運営を委託、平成18年4月より指定管理者制度導入により、直指定となっている。それにより、以前の月曜日休館から年間6日(年末年始)だけの休館となり、職員の勤務形態も変則勤務4交替のローテーション勤務となっている。指定管理料は年間3.5億で県から約3億円強となっている。支出内訳は、人件費約1.2億、管理費1.3億、事業費1億となっている。高校生以下及び65歳以上は観覧料無料であり、約半数が無料の観覧者となっている。展覧会年間観覧者は通算で526万人、近年は24万人平均となっている。展示内容の充実と事業費の確保など工夫しているとのことであった。

その後、常設展(シャガールなど)や特別展のマリメッコ展等を視察した。



(2) 香川県東かがわ市 2/25(木) 10:00～12:00 「土曜授業の取り組み」について

高知市より自動車道等を使って2時間弱、香川県東かがわ市役所に到着。東かがわ市教育長竹田具治氏、学校教育課長久保輝起氏らの出迎えを受ける。

挨拶の後、東かがわ市教育委員会学校教育課職員よりプレゼンを含む説明を受ける。その後、質疑。会議中竹田教育長も在籍され対応していただいた。説明によると、東かがわ市は平成15年4月3町が合併して発足、人口約31000人である。学校は、幼稚園5校、認定こども園1園(4園を統合し、小学校統合後の跡地を利用)、小学校6校、中学校3校である。学校再編に関しては5年計画で取りかかり、9校あったものが現在は6校、いずれ3校にする予定である。

土曜日授業については、①学力・体力の向上と子供達に主体性の育成 ②体験活動や創作活動、読書活動等を通して「生きる力」の育成 ③家庭、地域、高校(1校)、大学(鳴門教育大や香川大)との連携を図り、開かれた学校づくりの推進を目的とする。平成22年度から協議を始め、平成23年度モデル事業、順次開始して平成26年度市内すべ



ての小学校で実施している。現在、年間10回実施で土曜日の午前3時間実施している。実施形態としては地域連携型、大学連携型、教職員運営型の3形態がある。アンケートなどからは、子ども・保護者いずれも高い評価を受けている。課題としては、スポ少や地域行事との調整、不参加児童への対応、指導者の確保、教職員の負担軽減などである。

本市が取り組んでいる「教育課程内の学校教育である土曜授業」とは異なるため直接的な比較ということにはならないが、土曜日の過ごし方・地域や関係機関との連携といった面で参考になる点が多かった。また、市単独事業による「放課後英語クラブ」事業についてDVDを使ったプレゼンを受けた。このことや、学校再編にかかる取組等本市にも参考になる面があった。

(3) 徳島県吉野川市 2/25(木) 14:00~15:30

「学校再編」について

昼食後、吉野川市役所へ移動。吉野川市議会議長兼原五男氏、議会議務局長犬伏司氏らの出迎えを受ける。吉野川市は、平成16年、「四国三郎」で知られる吉野川中流域の麻植郡4町村が合併し、吉野川市となった。市域面積は144.19km²、人口は44000人である。吉野川市は、本市と防災協定を締結している市でもある。

吉野川市教育委員会教育総務課学校再編準備室職員より資料及びプレゼンで説明を受ける。資料には、倉吉市と吉野川市の比較（市章、市の木・花・鳥、予算規模等）といったものもあり、資料一つをとっても綿密な準備をさせていただいていることに感激する。

学校再編にあたっては、
 <平成22年度>教育委員会事務局内に内部検討組織を立ち上げて具体的な検討の開始。

<平成23年度>教育総務課に教育政策係を新設して吉野川市学校再編計画策定委員会の設置。

<平成24年度>答申を受けて、適正規模・適正配置の基本的な考え方、具体的な再編についてまとめる。

<平成25年度>に吉野川市学校再編計画（素案）の公表。

<平成26年度>第1期計画の対象小学校PTA説明会、就学前の児童保護者、地域住民説明会の開催、学校再編地域懇談会の開催～再編の決定、再編準備委員会設置というように、周到な計画・準備を行って再編に向かっている。

学校再編に関する基本方針は、

- (1) 児童・生徒にとって望ましい教育環境を実現すること。
 - (2) 通学距離や通学時間のほか、通学途上の安全確保に十分配慮し、保護者や地域住民の理解と協力が得られるものであること。
 - (3) 学校施設の整備にあたっては、既存施設を最大限有効活用し、防災上の安全性に配慮するとともに情報化などの新しい教育に対応できるものとする。
 - (4) 対象は、市立の小学校及び中学校とする。市立幼稚園は、吉野川市幼保再編構想により、市立保育所とともに認定こども園として整備、幼保一体化をめざすものとする。
- 再編の基準として、

- (1) 学級数 (2) 通学方法・距離からみた適正配置 (3) 再編対象校の要件①小学校に於いては複式学級が、中学校に於いては単学級が生じると見込まれる学校②改築を検討する学校ということが明記されている。

質疑の中で、「ベクトルを合わせる」という言葉と、しっかりと計画を検討し、段取りをつけた会議をもたれていること、決めたことに関しては丁寧な説明と毅然とした姿勢で臨まれていることが印象的であった。



	倉吉市	吉野川市
市章		
市の木	スズナギサ	スズナギサ
市の花	スズナギサ	スズナギサ
市の鳥	スズナギサ	スズナギサ
人口(平成25年度)	20,000人	44,000人
面積(km ²)	144.19	144.19
人口密度(人/km ²)	140	305
人口増加率(%)	0.1	0.1
人口減少率(%)	0.1	0.1

(4) 徳島県阿南市 2/26(金) 10:00~12:00

「野球のまち阿南推進事業」について

朝食後、阿南市へ移動。新庁舎建設中のため戸惑いながらも目的地に到着。阿南市議会議長久米良久氏、同議事課長青木芳幸氏、同野球のまち推進課長山崎秀行氏、同推進鑑田上重之氏、同課長補佐山下祥介氏らの出迎えを受ける。会場には、両市の市旗を飾ったり両市のマスコットキャラクターをアレンジするなど心配りにまたまた感銘する。

阿南市議会議長久米良久氏より挨拶及び市の概要説明、同野球のまち推進課推進鑑田上重之氏より「野球のまち阿南推進事業」について説明を受ける。

阿南市は、総面積279.56km²、人口約76000人である。阿南市には、日亜化学工業が製造するLED(発光ダイオード)を活用したまちづくりと野球の「光と野球のまち」といった他にはないまちづくりを進めている。

野球のまち推進事業について。

1. 「野球は儲かる事業、鶏が先か卵が先か どこかで流れを変える」等のキーワードのもと、次のような事業を行っている。

- ①集客につながる大会の運営協力 ②地元高校野球のレベルアップ ③合宿誘致 ④野球観光ツアーによる誘客 ⑤野球関連グッズの展示 ⑥放送記録員養成事業 ⑦審判員養成事業 ⑧イベントの開催 ⑨野球交流事業 等。

2. 「野球のまち推進事業」による効果等。阿南市において、

- ①草野球に着目して地域の振興を図った。
- ②プロ使用の本格的や球場を中高年齢の野球愛好家が使用できるようにした。
- ③全国初となる「野球のまち推進課」を創設。
- ④市民の協力

- ・ABO(阿南ベースボールおばちゃん60歳以上) ・おもてなしチーム
- ・ゆるキャラ「あなんくん」のボランティアによる作成年への贈呈 等

3. 実績と今後の展望

○宿泊者数約3000人 経済効果約1億円

○阿南市の主たる事業の一つに発展 「光と野球のまち」として全国発信。

○今年7月屋根付き練習場の完成による社会人野球の合宿の誘致と有効活用。

野球という一つのスポーツに着目し、市としての特色、一つの産業としての取組に感心した。様々な条件が異なるが、例えば、本市においても「駅伝」「剣道」「ウオーク」といった全国発信出来るものがある。滞在型観光と結びつけることでビジネスチャンスにもつながる。視察終了後、外出先より帰られた阿南市長岩浅嘉仁氏とお会いする。職員の話では、都合がつけば視察者への対応もされることが多いとのことであった。阿南市職員のおもてなしは市長の姿勢を映していると改めて感じた。

2. 視察・調査を終えて

「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。われわれの視察に対し時間を割き対応していただいた高知県立美術館、東かがわ市、吉野川市、阿南市の関係者の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂いたことに感謝いたします。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。

